

世界自然遺産とは

●世界自然遺産の目的

世界自然遺産とは、世界遺産条約で「顕著な普遍的価値」を有すると認められた文化や自然のことで、人類共通の財産として保護し、後世に伝えていくため世界遺産リストに登録されたものです。

世界遺産は、文化遺産と自然遺産、そして複合遺産に分類されます。

自然遺産は、観賞上、学術上又は保存上顕著な普遍的価値を有する特徴ある自然地域、絶滅の恐れのある動植物の生息地などが登録されます。

日本では、白神山地、屋久島、知床、小笠原の4地域が自然遺産に登録されています。

●やんばるの森が世界自然遺産の候補地に

平成15年に国の検討会で、琉球諸島を世界自然遺産の候補地として選定しました。そして、平成25年に設置された科学委員会で琉球諸島の中でも奄美大島、徳之島、沖縄島北部（やんばる）、西表島の4島に候補地が絞り込まれました。

やんばるの森が候補地に上がった理由は、ヤンバルクイナやノグチゲラなどの固有種が生息していることです。



●世界自然遺産になるとどうなるのか

世界自然遺産に登録されると地域の知名度が上昇し、観光客数の増加が見込まれ、観光産業の発展による雇用の創出が期待されます。また、知名度を利用して農林水産物等のブランド力の向上も期待されます。そして、地域住民の誇りや地域を大事にする心の醸成、さらには人口の増加が期待されます。

一方では、観光客の増加による自然の荒廃、移住者の増加等による地域社会の変化が危惧されます。

《世界自然遺産に登録されるためには》

世界自然遺産に登録されるためには、世界遺産条約に基づく価値基準を満たしていることが必要です。その基準は評価される価値の独自性が明らかであること、十分な規模を持っていることです。

また、法的措置等により評価される価値の保護・保全が十分に担保されていることが必要です。具体的には国立公園や自然環境保全地域に指定されるなど国レベルでの保護措置が取られているところです。

なお、やんばるの森の世界自然遺産区域は国立公園特別保護地区と第1種特別地域が推薦されます。

